

令和4年度第2回役員会会議報告

日 時 : 令和5年3月3日(金) 10時00分～11時30分

開催方法 : オンライン(Zoom)を活用しての開催

出席者 : ○役員(11名)

荒井会長、岩本副会長、早川副会長、吹屋理事、柳楽理事、今部理事、山田理事、
金原理事、定兼理事、福嶋理事、西監事(代理高野)

(欠席)なし

○オブザーバー(7名)

辻川氏、佐々木氏、森本氏、杉山氏、藤吉氏、青山氏、毛塚氏

○会長事務局(4名)他随行者

1. 報告

○会長事務局

- ・配布資料に関して、メールで事前にご確認いただいた際に、何人かの役員から修正箇所についてご指摘があった。大きな変更点はなかったが、すでに誤字訂正をおこなっている。最終的に確定したものは後日お送りするので、再度修正箇所があれば3月9日頃までにお知らせいただきたい。

(1) 今期・次期役員出席者・名簿

○会長事務局

- ・本来ならば、一言ずつご挨拶をいただきたいところであるが、時間の都合もあるので今期(第24期 令和3・4年度)及び次期(第25期 令和5・6年度)の役員について、会長事務局よりご紹介させていただく。今期役員の方々には御礼を申し上げるとともに、次期役員の方々にはお引き受けいただき御礼申し上げる。
- ・なお現時点では、次期役員の連絡先は会長事務局でお預かりしているが、次年度が始まったら次期役員が名簿の管理をしていただくことになる。ご了解をいただければ、会長事務局で連絡先を修正した上で、次期役員に引き渡したい。また、新旧で引継ぎができるように、会長事務局から双方にお伝えするのはいかがだろうか。

<一同承認>

(2) 会員の現況及び令和4年度会費納入状況報告

- ・別紙2資料のとおりである。

(3) 令和4年度事業結果報告

○会長事務局

- ・総会は、令和4年7月26日にオンラインで開催し、役員会を2回、臨時会を2回いずれもオンラインで開催した。会員入退会事務及び名簿管理などの業務は、事務支局に委託して遂行している。その他については資料別紙3のとおりである。

○副会長事務局

- ・例年ならば、ICA や EASTICA 総会、セミナーの案内を全史料協のホームページに掲載するなど、国際会議を会員の皆様にお伝えするところだが、令和4年度は開催されなかったためご案内できなかった。令和3年度夏には EASTICA より請求書が届いたので、令和4年8月31日に会費の支払いをおこなった。その他としては、ICA から送られてくるメールへの対応をおこなった。

○大会・研修委員会

- ・委員会については、第1回と第4回はオンラインで、第2回と第3回はオンライン・対面併用で開催した。大会は、令和4年10月27・28日にピアザ淡海 滋賀県立県民交流センターを会場としてオンライン開催した。参加者は延べ245名であり、昨年度の高知大会より30人程増えたが、これは1回線で何名参加したのかを、できるだけ正確に把握しようとした結果である。

○調査・研究委員会

- ・委員会については、第1回と第2回をオンラインで、第3回は令和4年11月30日に松江市内にてこの2年間で初めて対面開催した。公文書館機能普及セミナーは、同年11月29日に松江市市民活動センター交流ホールにおいて対面で開催した。内容としては、基礎自治体のアーカイブズの先行事例を大仙市に、文書館の整備構想を進めている松江市の取り組みについて、中国地方の基礎自治体を対象にした公文書管理に係るアンケート結果の中間報告をそれぞれしていただき、参加者の方からの質問をもとにしたシンポジウムをおこなった。参加者からは、文書管理に関する機運を高めるために今後も参加を検討したい、基礎自治体の先行事例と準備中の両者の事例について話を聞いたことがよかったなど、好意的な意見が寄せられた。
- ・調査・研究事業は、アンケートの取りまとめ分析し、先のセミナーで中間報告をおこなった。最終的には、全史料協の会誌に掲載する予定である。また、11月には広島県安芸高田市と島根県松江市を訪問し現地調査をおこなった。大規模災害発生時における情報窓口・連絡調整については、資料記載の3件について機関会員に安否確認をおこなった。後援承認については記載の6件を承認し、会長名で回答した。

○広報・広聴委員会

- ・委員会は第1回と第2回を令和4年6月と8月にオンラインで開催し、第3回は令和5年3月14日にオンラインで開催予定である。会誌『記録と史料』第33号は3月に発行予定で、会報第112号は令和4年9月に発行し、113号は令和5年3月中に発行予定である。ホームページの更新回数は、令和5年1月末時点で53回おこなった。その他として、会誌を119冊販売し（令和5年2月時点）、会誌・会報をホームページに掲載した。

(4) 地域別協議会活動報告

○関東部会

- ・総会および第1回委員会は、令和4年6月3日にオンラインで開催した。同年12月5日には臨時役員会を開催し、書面にて決議をおこなった。これは構成機関のブロック制を見直すものである。第2回役員会は、令和5年2月24日にオンラインで開催した。運営委員会は第1回を令和4年9月27日、第2回を同年12月26日にオンラインで開催した。定例研究会は全5回いずれもオンラインで開催した。なお314回は、当初は新潟市文書館での現地開催を計画していたが、感染状況に鑑み急遽

オンライン開催とした。今後、ウィズコロナ・アフターコロナにおける研究会の開催方法についての判断など、管理的な意思決定をどのように行うかなどについて、会長館事務局と運営委員とで調整していく必要があるという事案であった。

- ・会報の発行や会員数については資料のとおりである。

○近畿部会

- ・総会は、令和4年6月26日に尼崎市立歴史博物館で開催した。役員会は第1回を5月13日にオンラインで開催し、第2回を令和5年3月中に開催する予定である。例会は全6回でいずれも対面で開催した。第159回は前年度に予定していたものであるが、令和4年4月28日に尼崎市立歴史博物館で開催した。第162回は、徳島県立文書館を会場にオンラインと併用で開催した。
- ・目録規則・デジタルアーカイブ研修（AtoM実習）は、令和4年9月10日に近畿大学で開催した。令和3年度より試行的におこなっている公文書管理条例勉強会は、今年度も3回開催した。会報は77号から80号を発行し、月報は157号から162号を発行した。会員数は記載のとおりである。

（5）令和4年度決算見込額について

○会長事務局

- ・収入については、事務支局からの報告を受けた金額で、次年度に引き継ぐ際には証拠書類と合わせている。対面による会議等の開催が再開してきたということもあり、今後予算の執行をおこなわれると思うが、令和3年度の繰越金が多くなっている。
- ・支出については、大会・研修委員会費は大会開催にともなう旅費等の執行があった。事業費の執行は、例年どおりに戻りつつある。調査・研究委員会費は、会議等がリモート開催になると執行率が下がっている。広報・広聴委員会では、普及活動費はほぼ予定どおり執行されている。会長事務局においても、会議に係る旅費等の執行がなかったが、次期執行体制の検討のために臨時役員会を2回開催し、全国の機関会員にアンケートを実施したため、事務支局への委託が増えている。副会長事務局費は、EASTICA会費送金等をおこなっている。
- ・収支決算をみると、総収入額に対し総支出額の残額が55万7820円となった。これは次年度繰越金の増額分に相当するが、令和4年度の決算としては、収支にそれほど大きな余額を出さなかったのではないかと思われる。
- ・特別会計については、積立額を100万円としている。役員からは、余額あるなかで積み立てを続けるのはいかがかという意見もあったが、今年度は継続することとした。説明については、令和5年度の予算の方でさせていただきたい。

<質疑・応答>

○定兼理事

- ・臨時役員会の際に、大会・研修アンケートの結果は改めて集計後に報告いただくがあったが、どのようになっているのか。質問の意図としては、会員の声を役員会で共有化したいということである。また、近畿部会の例会報告にあった、新しい取り組みである「AtoM」や「アルフレスコ」について、もう少し補足説明をしていただきたい。

○吹屋理事

- ・現在、アンケートは五十数ページに及ぶまとめを作成している。分量が多かったため今回は差し控えたが、皆様との共有は必要ということは確かであるので、本データを会長事務局に送り同局から理事に転送していただきたい。

○会長事務局

- ・了承した。

○定兼理事

- ・来年度の大会にも関わるので、次期役員の方にもお送りし今後の協議の素材にしていきたい。

○金原理事

- ・「AtoM」や「アルフレスコ」は去年頃から開始した取り組みで、前者は電子の中で目録等をどのように組んでいくのかということについて、辻川敦氏（尼崎市立歴史博物館）を中心に進めており、後者は電子記録をどのように記録してどのように活用するのかを、無料のソフトウェアを使って取り組むことはできないかということについて、橋本陽氏（京都大学大学文書館）を中心に検討している。

2. 協議

(1) 令和5年度事業計画及び予算案について

①令和5年度事業計画案

②第49回全国（東京）大会について

○会長事務局

- ・総会1回・役員会2回は、暫定的ではあるが尼崎市を会場にオンラインでの開催を予定している。会員に係る事務については、来年度は事務委託の拡大を検討しているので、それを踏まえて管理を進めていく。

○副会長事務局

- ・令和4年度と同様に、国際会議・セミナー等を会員に案内していく。また、ICAやEASTICAの負担金の支払い事務をおこなう。

○大会・研修委員会

- ・委員会については、例年どおり4回開催しオンライン併用を予定している。全国大会については、協議事項②になるが、詳しくは資料別紙6-2を参照いただきたい。
- ・昨年度、滋賀大会の閉会行事の際に、次回は昭和女子大学を中心会場とすると通知した。その後、検討を重ねたが会場として確保することが難しいことが判明したため、近隣である駒澤大学を視察したところ、大会を開催するに十分な施設であることから、同大学を会場として使用したい。また、昭和女子大学については、大会への協力はおこないたいとの意向であるので、共催団体として発表等への登壇その他、大会に関わることを承認いただきたい。
- ・開催方法については、大会アンケートの結果を踏まえてハイブリッド型（対面・オンラインの併用）での開催を検討している。日時については、令和5年11月30日、12月1日を予定している。会場が定まっていなかったこともあり、大会テーマなどについては新体制になってから検討することになる。

○調査・研究委員会

- ・事業計画については、昨年度と同様を予定している。委員会を年4回開催し、事業の内容は資料のとおりである。

○広報・広聴委員会

- ・前年度と同様な事業を予定している。委員会は年3回オンラインで開催し、会誌は年1回、会報は年2回発行する。また、ホームページの更新を随時おこなっていききたい。

<質疑・応答>

○定兼理事

- ・副会長事務局より国際団体への負担金を支払うとの報告があったが、ICAは大会がないと思われるが、EASTICAの大会が開催され、それに出席されるということだろうか。

○副会長事務局

- ・EASTICAの総会は隔年で2年に1回開催されており、令和5年度は参加費用として、旅費についても予算計上している。

○定兼理事

- ・EASTICAには副会長事務局だけではなく、他の役員なども参加してもよいのではないだろうか。予算のこともあると思われるが、会として何名か派遣できるとよい。

○早川副会長

- ・5月8日のコロナウイルス5類引き下げにともない、対面開催への動きが大きくなると推測される。しかし、時間と旅費の節約などオンラインの良さということも感じていると思われるため、対面が基本という考え方ではなく、オンラインの良い点も活かしながら会務が運営されるとよいのではないかと思う。

③令和5年度予算案

○会長事務局

- ・収入については、機関会員・個人会費の会費未収分を支払っていただく前提で算出している。令和4年度の予算についても、令和2・3年度分の未収分が入っていた。繰越金については、令和4年度の段階である程度大幅な増額が避けられたので、その分だけの増額となっている。
- ・支出について、大会・研修委員会費は運営費減となっているが、全体的規模として概ね例年と同様になっている。調査・研究委員会費については、委員会をオンラインで実施したということで旅費の分を減らし、事業費の委託料に振り替えている。広報・広聴委員会費は、例年と同様である。副会長事務局費については、ICAやEASTICAの負担金への増額が反映されている。
- ・会長事務局費は、前年度から50万円の予算増をしている。内訳としては、事務局事務費の中で郵便代等の通信費2万円を落として、委託料を62万円増としている。これは、第2回臨時役員会でも議論になったが、次期の役員体制を支援していくため事務支局への委託業務を拡大し、役員を務める機関会員・個人会員の負担を軽減することを目的としている。その他、総会・役員会をオンラインで開催するため出張費を委託費に振り替えている。
- ・特別会計では、100万円の積立額を予定している。今後、事務支局を利用した委託の拡大が増えてい

くことが予想される。各委員会においても、委託によって業務の効率化を図ることができ、負担を軽減できるのであれば、会員が承認する範囲内で委託費の増額を検討していただきたい。

<質疑・応答>

○定兼理事

- ・積み立てはなぜするのかということについて、災害が起きたときのためであるなど議論したことがある。その程度の額では災害には対応できない、全史料協の50周年などの周年事業のために何か使えるのではないだろうか、というような議論がかつてあった。事務支局への委託は重要だと思うが、積み立ての目的を改めて確認する必要があるのではないか。確認のために、役員会で発言しそれを議事録で残すことに意味がある。積み立ては、周年事業のためにおこなっているということを提案する。また、周年事業はいつ開催するのか、周年事業の委員会を立ち上げるなど、今後次期役員会で協議していくべきではないかと思う。

○早川理事

- ・周年事業は組織を振り返るというだけではなく、対外的にも全史料協のプレゼンスを上げていく重要な機会になると思われる。

○山田理事

- ・前回から申し上げているが、総額が1500万円超ということで来年度予算は膨大な金額になっている。会長事務局による説明では、「単年度で入った会費はそれなりに拠出しているのだから問題はない」とのことであったが、母体自体、の繰越金等で巨額になっている。安易に事務局の負担軽減のために業務委託という話が出ているが、元々機関会員の会費については公金いわゆる税金で賄っているわけで、最小予算で最大効果をあげる仕組みであるとか、委託をするのであればどのような業者にするのか、そして委託業者の業務管理やきちんと監査ができるのか、個人会員などの個人情報を守れるのか等、色々な面でお金を使うことに関してのシビアな内規等をつくる必要があると思う。そういったことに関して全く説明がみられないので、これは警告だがこうした状況を役員人事も含めてきちんと問題視して、考えていかなければならない。特に回答は求めない。

○会長事務局

- ・委託等の流れについて、しっかり精査して説明できる形をつくることは、次期役員への申し送りとして重要な指摘をいただいたと思う。

<協議事項①～③までそれぞれ承認を得た>

3. その他

○会長事務局

- ・今年度決算の決算見込みについて、各役員のご協力に感謝したい。今後、今年度の執行分については、次年度の役員に引き継ぐ形になるので、今年度役員が精査し完結させて、関係書類一式を引き継ぐようにしていただきたい。
- ・冒頭の方でも申し上げたが、次年度役員にこの場を借りてお諮りしたい。現在、会長事務局

より会議などの案内を送っているが、その名簿や連絡先を取り扱っている。次年度、改めて作り直すことになると思うが、いま作成している名簿をBCCで配布し、修正箇所を反映させて完成したものを次年度役員に共有したいと考えているがいかがか。

<一同承認>

- ・新旧役員の引継ぎのためお互いの連絡先が必要になると思われるので、会長事務局で同じ委員会の連絡先や担当者名を双方に通知することで、引継ぎの橋渡しをしたいがいかがか。

<一同承認>

○会長事務局

- ・今回は、次期役員の方々にもオブザーバーとして出席いただいている。本来ならば、一言ずつご挨拶をいただきたいところではあるが、代表して次期の会長を務める尼崎市立歴史博物館の辻川敦氏に一言ご挨拶をいただきたい。

○辻川氏

- ・次期会長をお引き受けした辻川です。2年間にわたり会長事務局を務められた東京都公文書館、ならびに各委員会機関・個人会員役員の皆様に感謝申し上げます。昨年度、次期会長事務局・役員をどうするかかなり気をもむことになったが、現役員会のご尽力で何とか次の体制を組んでやっていけることにも感謝しており、引き継いで進めていきたいと思っている。全史料協はいま曲がり角にきているのだと思う。これまで機関会員を中心に委員会・事務局を引き受けられてきたが、それが特定の機関や個人に負担が集中していることは現実的な問題である。そのことを見直していき、機関会員であれ個人会員であれ必要に応じて担うことができるような体制、負担の軽減も含めて考えていきたい。もう一つは、会員にとっての全史料協ということをもう一度見直す必要があるだろう。負担の軽減という単純なことよりも、むしろ会員皆が担うことで運営されていくような会でないといけないと思う。先日、国立公文書館のご協力で認証アーキビストの集いがあったが、呼びかけのなかには櫛原さんをはじめ全史料協の中心メンバーも入っていて、それぞれの現場でたった一人でがんばっているアーキビストもいて、色々意見交換ができた。必ずしもそうしたメンバー全てが全史料協の会員ではないのだが、そういう人にこそ全史料協に入っていただきたいし、そういったアーキビストの活動に応えることが全史料協の存在意義であり、発言できる場であるから皆で負担を負って支えようとする全史料協にしていく必要がある。新役員の皆様にもご協力いただいて、旧役員の皆様も含めてそのような全史料協にしていきたいと思う。

以上

今期・次期役員名簿（令和5年3月3日現在）

第24期（令和3・4年度）役員

職名	氏名	所属	区分	備考
会長	荒井宏親	東京都公文書館	機関	
副会長	岩本茂幸	三豊市文書館	機関	
	早川和宏	東洋大学	個人	
理事	吹屋哲夫	山口県文書館	機関	大会・研修委員長
	柳楽利明	鳥取県立公文書館	機関	調査・研究委員長
	今部一良	神奈川県立公文書館	機関	広報・広聴委員長
	山田 恵	埼玉県立文書館	機関	関東部会長
	金原祐樹	徳島県立文書館	機関	近畿部会長
	定兼 学	前岡山県立記録資料館特別館長	個人	
	福嶋紀子	松本大学	個人	
監事	西 朗夫	武蔵野ふるさと歴史館	機関	

第25期（令和5・6年度）役員

職名	氏名	所属	区分	備考
会長	辻川 敦	尼崎市立歴史博物館地域研究史料室 (あまがさきアーカイブズ)	個人	
副会長	佐々木 智宏	福井県文書館	機関	
	早川和宏	東洋大学	個人	
	森本 祥子	東京大学文書館	個人	
理事	金原祐樹	徳島県立文書館	機関	大会・研修委員長
	杉山 一雄	岡山県立記録資料館	機関	調査・研究委員長
	藤吉 圭二	追手門学院大学	個人	広報・広聴委員長
	西 朗夫	武蔵野ふるさと歴史館	機関	関東部会長
	青山 学	滋賀県立公文書館	機関	近畿部会長
	定兼 学	元全史料協会会長	個人	
	福嶋紀子	松本大学	個人	
監事	毛塚万里	記録資料研究所/志度寺	個人	